

事業所の従業員に新型コロナウイルス感染者・濃厚接触者が発生した際の 対応及び事業継続に関するマニュアル（汎用版）

本マニュアルは、農林水産省「食品産業事業者の従業員に新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的なガイドライン」を元に、業種を問わず汎用的に活用できるよう直方商工会議所がリバイスした「事業所用マニュアル」の雛形です。各事業所におかれましては、実情に合わせて追記・修正するなどしてご活用ください。

1 従業員の感染予防策の徹底

- (1) 従業員に、次に掲げる自己管理及び速やかな報告を要請する。
 - ① 体温の測定と記録
 - ② 発熱や味覚・嗅覚の異常等の症状がある場合には、所属長への連絡及び自宅待機
 - ③ 少なくとも以下のいずれかに該当する場合には、所属長への連絡及び新型コロナウイルス感染症専用相談窓口(※)又はかかりつけ医への問い合わせ
 - (ア) 息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
 - (イ) 重症化しやすい方(※)で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
(※) 高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患(COPD等)等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方
 - (ウ) 上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合
(症状が4日以上続く場合は必ず相談。症状には個人差があるため、強い症状と思う場合にはすぐに相談。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様。)
 - ④ 新型コロナウイルス感染症の検査の状況、診断結果等についての所属長への速やかな報告
- (2) 事業所内において、次に掲げる感染予防策を徹底する。
 - ① 出勤時、トイレ使用后、製造加工施設・売場等への入場時には手洗い、手指の消毒
 - ② 常時不特定多数の者が集合する場所では、できる限りマスクを着用すること。マスクの確保が困難で着用できない場合には2メートルを目安として適切な距離を保つこと。また、マスクがない時に咳をする場合にはティッシュ・ハンカチや袖等で口や鼻を被覆すること。
 - ③ 通常の清掃に加えて、水と洗剤を用いて特に机、ドアノブ、スイッチ、階段の手すり、テーブル、椅子、エレベーターの押しボタン、トイレの流水レバー、便座等人がよく触れるところの拭き取り清掃

※福岡県内の帰国者・接触者相談センター

【 従業員様の居住地の保健所等にご連絡ください 】

機関名称	電話番号	受付時間
嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所	0948-21-4972	平日 8時30分から17時15分
宗像・遠賀保健福祉環境事務所	0940-36-6098	平日 8時30分から17時15分
田川保健福祉事務所	0947-42-9379	平日 8時30分から17時15分
北九州市新型コロナウイルス専用ナビダイヤル	0570-093-567	24時間対応

筑紫保健福祉環境事務所	092-707-0524	平日 8 時 30 分から 17 時 15 分
粕屋保健福祉事務所	092-939-1746	平日 8 時 30 分～17 時 15 分
糸島保健福祉事務所	092-322-5579	平日 8 時 30 分～17 時 15 分
北筑後保健福祉環境事務所	0946-22-9886	平日 8 時 30 分～17 時 15 分
南筑後保健福祉環境事務所	0944-68-5224	平日 8 時 30 分～17 時 15 分
京築保健福祉環境事務所	0930-23-3935	平日 8 時 30 分～17 時 15 分
福岡県保健所夜間休日緊急連絡番号	092-471-0264	夜間休日
福岡市新型コロナウイルス感染所相談ダイヤル (帰国者・接触者相談センター)	092-711-4126	24 時間受付
久留米市新型コロナウイルス相談センター	0942-30-9335	24 時間受付
外国語対応		
福岡アジア医療サポートセンター	092-286-9595	24 時間受付

2 患者発生時の患者、濃厚接触者への対応

(1) 感染者発生の把握、報告及び周知

感染者が確認された場合には、事業所の所在地を所管する保健所に報告し、対応について指導を受ける。また、従業員に対しては事業所内で感染者が確認されたことを周知するとともに、1に掲げる感染予防策を改めて周知徹底する。

(2) 濃厚接触者の確定及び対応

- ① 保健所の調査に協力し、感染拡大防止のため、速やかに濃厚接触者と見込まれる者を自宅に待機させる。
- ② 保健所が濃厚接触者と確定した従業員に対し、必要に応じ PCR 検査（行政検査）の受検あるいは感染者との最終接触から 14 日間の健康観察を行う必要があることから、保健所の指示に従う。
- ③ 濃厚接触者と確定された従業員に対し、発熱又は呼吸器症状（軽症の場合を含む。）を呈した場合には、保健所に連絡して PCR 検査（行政検査）を受検するよう促し、速やかにその結果を報告させる。

「濃厚接触者」とは、「患者(確定)」が発病した日以降に接触した者のうち、次の範囲に該当するもの

- ・ 新型コロナウイルス感染症が疑われる者と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ・ 適切な感染防護無しに新型コロナウイルス感染症が疑われる患者を診察、看護若しくは介護していた者
- ・ 新型コロナウイルス感染症が疑われる者の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・ その他、手で触れること又は対面で会話することが可能な距離（目安として2メートル）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と接触があった者（患者の症状などから患者の感染性を総合的に判断する。）

<「新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査要領（暫定版）（国立感染症研究所感染症疫学センター令和2年2月27日版）」>

3 施設設備等の消毒

- (1) 保健所が必要と判断した場合には、感染者が勤務した区域（執務室、製造加工施設、倉庫、売場等）の消毒を行う。
- (2) 消毒は保健所の指示に従って実施することが望ましいが、緊急を要する場合には、感染者が勤務した区域のうち、手指が頻回に接触する箇所（ドアノブ、スイッチ類、手すり等）を中心に、アルコール（消毒用エタノール（70%））又は次亜塩素酸ナトリウム（0.05%以上）で拭き取り等を行う。

食品等取扱い事業者については、製造、流通、調理、販売等の各段階で、食品取扱者の体調管理やこまめな手洗い等の一般的な衛生管理が実施されていれば、感染者が発生した施設等は、操業停止や食品廃棄などの対応をとる必要はありません。

4 業務の継続

- (1) 重要業務の継続
 - ① 感染者及び濃厚接触者の出勤停止の措置を講じることにより、通常の業務の継続が困難な場合には、重要業務として優先的に継続させる製品・商品及びサービスや関連する業務を選定し、重要業務を継続するために必要となる人員、物的資源（マスク、手袋、消毒液等）等を把握する。
 - ② 重要業務継続のため、在宅勤務体制・情報共有体制・人員融通体制を整備するとともに、重要業務継続のための業務マニュアルを作成する。
- (2) その他必要なことは別途定める。

(参考)

- ・ 農林水産省「食品産業事業者の従業員に新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的なガイドライン」

URL : https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/ncv_guideline.html

- ・ 日本商工会議所「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大防止について」

URL : <https://www.jcci.or.jp/news/jcci-news/2020/0221180353.html>

- ・ 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の大規模な感染拡大防止に向けた職場における対応について」

URL : https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10631.html